

氏名(国籍)	鄭 燾 赫 (韓国)
学位の種類	博士(体育科学)
学位記番号	博甲第4118号
学位授与年月日	平成18年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	小学校体育授業における学習時間及び学習従事量を高めるマネジメント指導方略に関する研究 -特に予防的マネジメント指導方略と指導技術を中心に-
主査	筑波大学教授 博士(体育科学) 中込四郎
副査	筑波大学教授 博士(体育科学) 近藤良享
副査	筑波大学助教授 岡出美則
副査	筑波大学教授 博士(体育科学) 高橋健夫

## 論文の内容の要旨

### (目的)

本研究は、体育の授業において学習時間を保証する効果的なマネジメント指導方略及び指導技術を、予防的マネジメントに焦点化し、実際の授業に即して実証的に明らかにすることである。

### (対象と方法)

この目的達成に向け、次の下位課題を設定した。

課題1 体育の授業過程における4大教師行動及び学習行動の現状

課題2-1 効果的なマネジメント指導方略及び指導技術に関する検討

課題2-2 グループ随伴性方略の有効性の検討

課題3 効果的な予防的マネジメント指導方略及び指導技術の検討

検討の対象は、小学校の体育の授業である。

課題1では、組織的観察法を適用し教師行動と学習者行動を観察、記録するとともに、形成的授業評価を用い学習者の心情面での学習成果を評価した。

課題2-1では、熟練教師と一般教師の授業を対象に組織的観察法を適用し、授業場面の時間量並びにマネジメント場面の時間的比率と頻度、各場面での教師のマネジメントに関する言語行動の頻度、フィードバックの頻度、内容が検討した。

課題2-2ではマルチプル・ベースライン・デザインを適用し、集合・待機に要する時間量、オフタスクの時間量、運動学習の従事量が祖師的観察法を適用して検討した。

課題3では、予防的マネジメント方略を適用する介入実験授業を実施し、授業場面の時間量、準備や片付けに要する時間量、学習行動並びに教師の適用したマネジメント・テクニックと否定的フィードバックについて検討した。

(結果)

課題1では、マネジメント場面の時間を減少させたり、インストラクション場面を減少させ、ユニ道学習時間を確保することの必要性が確認された。また、そのためには、教師の積極的な巡視や学習者との相互作用が重要であることも確認された。

課題2-1では、熟練教師の授業では集合場所を一定することや具体的なマネジメント課題を設定する等、予防的なマネジメント指導技術が適用されていることやマネジメントの構造化が図られていることが確認された。

課題2-2では、グループ随伴性方略により学習者のマネジメント従事時間の減少や運動学習従事量の増加が認められた。

課題3では、ポイントシステム等の学習者の行動を強化するマネジメント・テクニックの活用がマネジメント場面の時間量減少に効果的であることが確認された。

(考察)

マネジメントの構造化を図るとともに、予防的マネジメント・テクニックを活用することは、マネジメント時間の減少に効果的であった。他方で、運動学習場面の時間を確保するためには、インストラクションの効率化とともに、規範として提示された約束事に対する合意形成等の手続きの必要性が示唆された。

## 審査の結果の要旨

審査会では効果的な授業実現の鍵を握るマネジメント時間の減少を可能にするマネジメント方略並びに指導技術の有効性を、予防的マネジメントに焦点化し、実際の授業に即して証明した点が高く評価された。

他方で、今回の結果が小学校での体育授業以外の授業にも適用可能であるか否かの追従が求められることや、教師の提示する約束ごとに対する合意形成の手続きを組み入れることの必要性も指摘され、今後、より一層研究を進展させていくための課題についても言及された。

よって、著者は博士(体育科学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。